

RONGO²とは？：茨城キリスト教大学文学部 文化交流学科の広報誌です。学生が中心となって年2回発行しています。



RONGO²

DEPARTMENT OF C-C STUDIES



TOPICS



お得な情報が盛りだくさんな
ロンゴ10月号

C科学生向けの新たな情報ツール
ロンゴロンゴ公式 LINE 開始します

初めまして！ようこそ文化交流学科へ
新入生交流会が行われました

勝山先生ってどんな先生？
勝山絢子先生×ロングインタビュー

就活ってどうすればいいの？教えて先輩！
4年生に聞いてみた！就活Q & A

先生ってどんなのが好きなの！？
C科先生オススメ〇〇

清水先生・岩間先生にお聞きしました
「地域貢献研究」って？？



表紙写真・C科3年 佐藤凜

C科専用 公式LINE開始します!

ロング公式LINEって?

文化交流学科の学部内広報誌「ロングロング」を作成するロングロング編集部が企画したC科学生向けの新たな情報配信ツールです。C科のイベント情報、ボランティアの募集、講演会等の告知、教員からのお知らせ、学生からのゼミ研究用アンケートの依頼などなど…ロングロング編集部に寄せられた大学関連・学科関連の情報を登録者に LINE を用いて配信します。

利用方法

▼一般学生の使い方

使い方は簡単! 公式 LINE の QR コードを読みこみ友達追加で簡単登録。情報は随時配信されます!

個々の情報に関しては、掲載依頼主へ直接連絡していただく流れになります。

掲載を依頼したい方は、事前に編集部または、顧問・鈴木晋介先生にお問い合わせください。

C科教員が依頼する場合

編集顧問へのご連絡後、300字以内を目安とした掲載文を作成いただき、編集部が配信いたします。

C科学生が依頼する場合

まずは、編集部または鈴木晋介先生までご相談ください。調査研究などは編集部で内容をチェックした上で対応いたします。なおサークルや個人的な掲載は不可とします。

EXAMPLE1

学生の募集をしたい教員A

研究資料整理のアルバイトを募集したい旨、編集部に掲載依頼。日付・締切・内容・連絡先等を確認後、公式 LINE で配信。

配信を見た学生から教員の連絡先へ参加希望が送られる。

EXAMPLE2

ゼミのアンケート調査を行いたい学生B

自分の卒業研究で学生向けのアンケートを実施したいと思い、編集部へ相談。どのような形式で配信するかを決定後、フォームズを利用した調査 URL を配信。登録者から協力を得られる。

EXAMPLE3

教員たちと関わりを持ちたい学生C

今後のために教員たちと関わりを持ちたいけど、研究室に行くのは少し怖い。そんな時は公式 LINE で配信される教員の募集協力を希望して機会を得よう! 普段は関わりのない教員のことを知るチャンスです。

利用上の注意点 ~ご一読ください~

「ロングロング公式 LINE」は、編集部に掲載依頼があった案件のみを配信するものです。

大学の行事や連絡事項のすべてを配信するものではありません。

そのため、それらは UNIPA 等で各自確認するようにしてください。

また、配信は登録者のみに行うため、登録していない学生には配信されませんのでご注意ください。

個々の掲載情報に関する問い合わせは掲載依頼主をお願いします。

「ロングロング公式 LINE」は、ロングロング編集部の

学生たちによる自主的なサービスです。管理人は、ロングロング編集部です。

なお、掲載情報は、編集顧問(鈴木先生・中山先生)が事前に内容確認を行ったのち配信します。

本サービスに関する問い合わせは、ロングロング編集部または鈴木晋介研究室までご連絡ください。



▲お友達追加はこちらから▲

TIME SCHEDULE

日時：2021年5月15日（土）13：30-16：30

13：00 集合 学科主任（染谷教授）挨拶

13：30 グループごとに作業（最終確認）

13：30～15：00 発表

16：10 表彰式

16：30 解散

GODIVA



1位にはなんと **GODIVA** のアイスが...
2位以下にも素敵な景品が！
見事、1位に輝いたグループは
どの国だったのでしょうか！！？

..... 発表前にロンゴ編集部（沼崎）が学生にインタビューを行いました！

染谷ゼミ A 鈴木氏

沼崎「今回の意気込みは。」

鈴木「皆で優勝賞品のゴディバアイスが食べたいので、一等狙って頑張ります。」

沼崎「ありがとうございます。発表するうえで苦労した点は。」

鈴木「発表をまとめようとする時間が足りなくなってしまい苦労しました。

パワーポイントと文章の配分も難しかったですが、見やすいよう工夫しました。」

C科新入生交流会が行われました

【新入生交流会とは？】

1年生がチームに分かれ、本学協定校がある国について調べ発表するC科の恒例行事。今年も各チームが工夫を凝らした個性的な内容・パフォーマンスを行いました。

宮崎ゼミ B 中里氏

沼崎「今回の意気込みは。」

中里「絶対一等とります！今回は劇を使って発表するんです。」

沼崎「そうなのですか。ありがとうございます。発表するうえで苦労した点は。」

中里「文章の配分やセリフ分け、キャストの選出が大変でした。私たちにとって、

このような場所では初めてなので、慣れない発表で緊張します。しかし、景品が楽しみです！」

発表は以下の8チームで行われた。

実際に現地の料理を作り動画にまとめたグループやクイズ形式または、劇での発表など
見ている人も楽しめるような個性あふれる発表であった。

岩間ゼミA【キルギス】

染谷ゼミA【韓国】

岩間ゼミB【台湾】

染谷ゼミB【中国】

勝山ゼミA【イタリア】

宮崎ゼミA【インドネシア】

勝山ゼミB【ベトナム】

宮崎ゼミB【カンボジア】



▲発表風景



結果発表 1位 宮崎ゼミB【カンボジア】

カンボジア班は、イオンの社長と課長がカンボジアに視察に行き、仏像を見つけ博物館建設までのストーリーを実際に劇で発表をした。

審査員からは「見ていて楽しい発表だった」「分かりやすかった」と高評価され、今回見事1位に輝いた。

しかし、どの班も魅力的で、甲乙つけがたい発表であった。表彰後のインタビューで、宮崎ゼミB 中里さんは

「発表ではイオンの社長役を務めた。アイスをGETするために頑張ったので勝ててよかった。優勝賞品のためにグループ皆で一つになって努力した、よい経験になった。」と述べてくれた。

今年の4月から文化交流学科の教員として新たに加わった
勝山紘子先生に色々質問してみました

勝山 紘子先生



ロングインタビュー



Q. 学生とどのようにかかわりたいと考えていますか？

授業では、基本的に

自分がおもしろいと思ってることをみなさんにお伝えしたい

とお話をしているので、考える刺激をたくさん提供できたらいいなと思ってるんですけど…それプラス、とにかく仲良くなれたらいいですね！

Q. 自己紹介をお願いします！また研究していることについて教えてください

4月から社会学助教として本学に赴任しました。もともとはドイツ文化が専門です。本学ではドイツ語も担当しています。それがなぜ社会学かという、ドイツ文化の中でも人間と、人間を取り巻く環境としての社会の関係にずっと関心をもって研究してきたからです。たとえば「人間の身体の境界はどこにあるのか、身体と社会はどう関わっているのか」という問いをたてて、ひとびとの身体意識がどのように目に見える形になっているかを調べたりしてきました。わたしたちの身体は皮膚に覆われた物理的な境界を持っていますが、実はその境界は簡単に超えられたり侵害されたりします。例えば道具を使うときは指や手の機能を拡張させています。スマホとか車でもそうなんですけど、人間は自分の身体の延長でものをを使うということをすごく器用にしている。その一方で、事故に遭ったら、それまであったはずの腕がなくなるかもしれない。身体の領域は絶対ではないんですね。また、人間は、失われた身体箇所の機能を器具や機械で補完することにも積極的に取り組んできました。人間の身体って不思議で、自覚しているよりはるかにフレキシブルです。そういう不思議さが、社会のさまざまな状況の中でどういう風に働くのかなということが私の関心です。

Q. 学生のいいところはどんなところですか？

毎回、授業のあとリアクションペーパーを書いてもらうのですが、回を追うごとに感想がよくなっていきます。一生懸命書いてくれて、みなさん、自分の感性を使って授業の感想を書いてくれている。私としても授業のやりがいがあるうれしいです。

Q. 海外で印象的だったことは何ですか？

カルチャーショックという意味では、カナダに行ったときもドイツに行ったときも**食器を洗った後、その泡を流さないこと**。泡のままお皿を並べていくのは、私はすごく気持ち悪かった(笑)日本人の留学生のけっこうな人たちが多分それでホストファミリーに怒られていると思うんですけど、泡を洗い流すと、流さなくていいんだ！って怒られるんです。「次に使うときに洗剤食べてない？」って思うんですけど、大丈夫みたいですね(笑)それよりも水がもったいないとか水資源を大事にするっていう感覚がすごくあるみたいです。

あと、男女の意識の違いは特徴的かな。ドイツに留学をしたとき、語学学校に部屋を紹介されたんですけど…「この人と一緒に暮らしてください」といわれたもう1人が、ギリシャ人の男性で、「え？」ってなって。彼の部屋には鍵があったんですけど、私の部屋には鍵がなくて、バスルームも鍵が付いているけど、昔ながらの鍵穴に鍵をさすタイプのドアで、鍵穴から中が見えるという状態で…。そのギリシャ人は優しい良い人だったので問題はなかったんですけど、どうしてもその状況に抵抗があったので、寮の担当の人に「部屋を変えてください。やっぱり男の人と二人で住むのは嫌です」と言ったんです。すると、「そんなことで文句を言ってきたのはあなただけよ」と言われたんですね。「私がおかしいの？」とも思ったんですけど、部屋を変えてもらいました。この体験は当時のわたしには一番のカルチャーショックでした。

男女の性差をどう見るか、というのは、国によっても、文化によっても、時代によっても違います。それがなぜ違うか、どう違うかを見ていくのは、すごく興味深いです。例えば、お母さんが赤ちゃんに授乳をするというのも、昔の日本では特に恥ずかしいものではなく、公衆の面で行なうことでした。ドイツでは今でも人前での授乳は問題視されません。授乳ケープすら使いません。今の日本の文化ではそんなことはできないし、マナー違反にもなりますよね。人の意識や「当たり前」の感覚は社会が作るのだと実感する一例です。

Q. 特技・趣味・好きなことについて知りたいです！

技や趣味、好きなこと。そうですね…もともと、ずっと絵を描いていて。小学2年生から大学院まで油絵をやっていたので、**自分は絵に関係することで生きていくんだ**と思っていました。美術の専門学校に転校しようかな、と悩んだときもありました。最近はあまり描けていないんですけど、絵を描くことはずっと好きです。今は子どものためにイラストを描くくらいですが。ほかに聞きたい！？…えっと、趣味は子育てです。子どもといるだけですべてが満たされるので、趣味は子どもたちです！

Q. ドイツの魅力について教えてください

長くドイツのことを研究していると、いい部分だけじゃなくて、国としてネガティブな部分が歴史的にたくさんあったことも知っているのですが、手放してドイツはいいところで素敵だよって言うのはちょっと難しいんですけど、すごくライトで日常的なところでいうと、**パンが美味しいです(笑)**ものすごく美味しい。チーズやビールも美味しい。チョコも美味しい。ドイツに語学留學生として3か月滞在したとき、毎日おいしいパンとおいしいチョコを食べて幸せだったんですが、5キロ太りました…。

日本との違いでおもしろいところはたくさんありますね。たとえば温泉は、日本のようなお風呂の拡大版というより、リラックスする、健康のための施設で、男女の区別はなく、水着を着て楽しめます。サウナが好きなドイツ人も多いんですけど、**サウナも男女混合で、しかもこちらは裸で入ります**。びっくりですよ。そういう部分でも**身体っていうものに対する意識**が日本とすごく違って、性的な対象として身体を見ないときには、性別は考慮しない。サウナというのはみんなが健康になるために汗をかきに来ているので裸でいいですよ、男性女性関係ないですよ、そこに性的な感覚を持ち込むことがおかしいですよっていう考えです。ドイツ人って、大きく見ると自然に還りたい欲求が強い人たちなんですね。だから定期的に裸でスポーツしようとか、みんな裸で日光浴しようみたいなイベントが開催されるし人も集まる。日本人とは根本的に違う感覚があるのかなと思ったりします。そういう違いを見ていくのもすごくおもしろいですね。

Q. 大学生生活の思い出を語ってください！

大学生生活は、とにかく勉強しました。大学に入ってから、受験勉強とちがいで、初めて自分が何かを学ぶ意味というのを感じられたので、楽しんで頑張っていた気がします。あと絵が好きだったので、絶対に学芸員の資格は取ろうと決めていました。美術館での実習はすごく楽しかったです。大学が家から自転車で5分のところだったので、あまりキャンパスライフという意識がなくて…ちょっとそこまで行くみたいない、いつもそんな感じでした。卒業してからも大学とはいろいろと提携を組ませてもらって、授業はもちろん、社会人講座や高校生のためのプロジェクトなど、たくさん仕事をしてきました。なので、私にとっては、働くようになってからもずっと関係が続いている場所。思い入れはすごく深いですね。

Q. チャレンジしたいと思っていることはありますか？

私は実は、日本語教師の資格を持っているんです。ずっとドイツ語を教えてきて、日本人に外国語を教えることは楽しかったけど、それが外国人に日本語を教えるとなったらどうなのか？と興味湧いて。2019年に日本語を教えるボランティアを始めて、今もひたちなか市国際交流協会というところで活動しています。

外国人が日本社会の中で一緒に暮らしていくときに大切になるのは、周りの日本人とコミュニケーションが取れることです。そのためには、日本語ができないと難しい。日本人と外国人が関わり合えないままだと、誤解や偏見がうまれます。トラブルも起きます。

日本語を勉強してから来日する人はいいですが、実際は、日本語はまったくできないけれどとりあえず来ました、という人がたくさんいます。日本に住む中で勉強できた方がいいのですが、日本語学校の学費が高いとか、とにかく日本語がわからなくてもできる仕事に就いて働くから時間がないなど、さまざまな理由で学習の機会を得られない人も多そうです。そうすると、長年日本に住んでいるのに日本語がきちんと使えないという負い目を感じながら生活することになる。そうした家庭では子どもに言葉の問題が出ることもあります。外国人への日本語学習のサポートは、今後間違いなく、社会の必須の課題になります。

なので、私は、これからの社会の中でいろいろな背景を持つ外国人と日本人が**トラブルなく暮らしていけるあり方、共生していく仕組みを日本語学習支援の側面から考えたい**と思っています。これは目下、社会学での新しいテーマとして研究を進めているところです。

Q. 最後に学生に向けてメッセージをお願いします

そうですね…人生とか日々の生活って、けっこう簡単につまらなくなります。自分が楽しむ方法が分かっていなかったら世界は閉じがちになる。でも、それはすごくもったいないことで…自分のアンテナを広げていくコツを自分自身でつかめれば、ものすごくたくさんの情報が入ってくるし、ものすごくたくさんの刺激をキャッチできるし、人生の入り口のドアはたくさん開いていきます。

自分の人生を楽しくできる、自分を幸せにする方法を探せるのは自分だけなので、そういう毎日の過ごし方をしてもらえたらいいな、と思います！

就活ってどうすればいいの！？教えて先輩！！

4年生に聞いてみた！就活Q&A

実際に3年生以下から質問を募集し、8名の先輩方に回答いただきました。

Q. 就活を意識して行動し始めたのはいつですか？

- ・ 3年夏休み明け頃
- ・ 3年9月
- ・ 3年10月頃
- ・ 3年11月
- ・ 3年1月
- ・ 3年2月（2名）

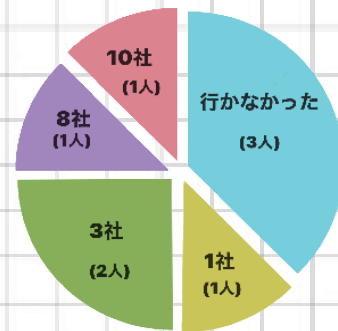
Q. 就活を終えたのはいつ頃ですか？

- ・ 5月
- ・ 5月下旬
- ・ 4年6月（2名）
- ・ 6月上旬（2名）
- ・ 6月半ば
- ・ 4年9月

Q. 就活で早めに準備した方が良いことは何ですか？

- ・ ボランティアなどの活動を行ったり自分自身の考え方を構成するものは何かを考える。
- ・ どんな仕事に就きたいかを熟考することと、情報収集
- ・ 志望業界を決めるための自己分析
- ・ 業界研究、企業研究
- ・ エントリーシート、SPI
- ・ マイナビ、リクナビなどの就活アプリをインストールすること。
ジャンルを絞らずに、気になったのならとりあえずインターンに参加してみることに。
インターン中に企業研究を同時進行でやると効率的だと思います。
- ・ 自己PRや学生時代頑張ったことなどを早めにキャリアセンの方に添削してもらうこと

Q. インターンは何社行きましたか？



Q. 自己分析・業界研究のコツはありますか？

- ・ とにかく早めに取り掛かって広範囲から徐々に自分に合う業界を絞っていく
- ・ 就活は友達と助け合うのが1番です
- ・ 自己分析：自分をいろんな人に客観的に見てもらうこと
- ・ 業界研究：同じ業界の異なる企業の説明会に参加し比較対象を増やすこと
- ・ 自分が今までやってきた取り組みやそこから生まれた考え方を見つめ直す。
- ・ モチベーショングラフというものを作成して、自分はどんな時にモチベーションが上がるのか下がるのかを知ることです。
業界研究は、本をみたりインターネットで調べたりしました。コロナ禍で先が分からないことも多いので、これからの業界の状態も調べてみるといいと思います。
- ・ 中学時代から現在まで、どんな出来事があったか、何に打ち込んだか、そこから何を学んだかをノートに書き出しました。
- ・ 周りの人に自分の長所短所、集団での役割などを聞いて自己分析。 就活を終えた1つ上の先輩に聞いて業界研究。
- ・ 自分がどの業界で、どこのどの会社で働きたいかをしっかり決める。

Q. その他後輩に向けてメッセージやアドバイスがあればご記入ください！

- ・ なかなか内定が貰えずに不安やストレスを抱えることもあるかもしれませんが、焦らずに適度に気を抜いてやるのが一番だと思います。就活頑張ってください！
- ・ 「就活なめちゃだめ！」「どうにかなるだろ」精神のままだと本当に置いていかれる！
- ・ ゆとりをもって始めれば焦ることなく就活ができ、早めに就職先が見つかります。また自分がどの企業に合っているのかを考える時間が多くなるのでより良い企業と出会えると思います。理由は何であれ、少しでも興味がある企業の説明会には足を運んで、比較対象を増やしていくことも大切だと思います。
時には、周りの人たちと比べて遅れをとっているのではないかと焦ってしまう時もありますが焦ったところで何も良いことはありません。
また、内定がなかなか決まらず苦しい時や辛い時も多くあるので友人と一緒に愚痴ったり、たまには自分を甘やかしながらそれぞれのペースで頑張ってください。
- ・ 硬くならないでリラックスしたほうが上手くいきます。頑張ってください。
- ・ 自分が何をやりたいのか、興味をもっているのかを知った上で行動にうつした方が、企業選びもしやすいのではないかと思います。
そのため、まずは自己分析をやってみるといいと思います。私はInstagramの就活アカウントを使ったりして情報収集もしていたので、SNSを活用するのもいいと思います。自分が心から行きたいと思える企業に出会い、就職できることを目指して頑張ってください。
- ・ 私はなかなかやる気が起こらず、就活を始めたのが2月で、十分な準備をせず選考に挑み悔しい思いをしました。
なので早く就活を始めた者勝ちです！最後まで諦めず、自分を信じて頑張ってください！
- ・ 就活を早く終わらせることも良いと思いますが、自分のペースでやっていくことで良い企業に巡り会えると思います！
実体験です。根気強く、ときには力を抜いて頑張ってください！
- ・ 面接はその人の優秀さを判別するものではなく、その人の人柄や性格を判断するものです。
そのため、嘘はつかずに自分に正直に答えることが重要です。
また、面接で落ちて「自分はこの会社と合わなかったんだ。縁がなかった。」と割り切って次の面接に望むのが良いでしょう。



宮崎先生【本・映画】

1. 『サトコとナダ』

日本人の留学生サトコがイスラム教徒の女の子、ナダと出会う。出会った当初はイスラム教徒というレッテルでナダを見てしまうが、ルームメイトとして時間を共にし、仲良くなっていくうち、サトコは・・・

2. 『僕たちは世界を変えることができない』

主人公の大学生が仲間を募り、カンボジアの状況を変えるために150万で学校を建てる。しかし、建設しても現状は何も変わらなかった。彼らが挑戦をしたからこそ味わうことのできた失敗、挫折、再挑戦の物語である。

3. 『パッドマン』(映画)

舞台はインド。貧しくて生理用ナプキンが変えず、不衛生な雑巾で代用せざるを得ない妻のため、1人の男が清潔で安価な生理用品の開発に奔走する。ぜひ男性にも見てほしい。

4. 『990円のジーンズが作られるのはなぜ?』

現在、お店ではとても安く服が手に入る。命を危険にさらしてまでも働いている人がいるからだ。今現実で起こっている問題である。

5. 『「発達障害」とされる外国人の子供たち』

日本に増加している外国人労働者の子供たちは、「日本語が読めない」という理由だけで発達障害の認定を受けてしまう。生々しい現実を知ることが出来る。

6. 『三つ編み』

生きにくさを抱える国の違う3人の女性が出会い、物語が展開していく。小説だが言わんとしていることが難しいため、大学4年生や、特に本を読みなれている人におすすめ。

清水先生【旅】

「旅行」じゃなくて「旅」!

学生の頃から、各地のお祭りを観に行くことが楽しみ。お祭りは、日常生活から解き放たれるハレの行事。精魂込めてお祭りに取り組む人々を眺めていると、「なぜこんなに一所懸命になれるのだろう」と思うことがある。

一人旅は自由気ままだし、気の合った友達と連れ立って行くことも楽しい。これまでの旅はすべて一生の思い出(宝物)。思い返すと、学生のときしか経験できない旅があることに気づく。学生だから、旅先で出会う人たち誰もが優しくしてくれる。ときには、ワクワクするときめきもある。二度と会うこともない人たち、ただ一生忘れることはない人たち…。若いときにしか体験できない旅がある。さあ、みんな旅に出かけよう!

「旅」とは、住んでいるところを離れてよその土地に行くこと。人生儀礼のひとつとして、青年や娘が成人として認められるために「旅」を経験するという習俗もあった。海外でも国内でも、自分が憧れているところへ出かけてみよう。行こうか行くまいか思い悩んでいるよりも決心することが大切。1泊だって1年中だって学生なら自由。バックひとつで旅立とう。そして、自分が住んでいるところからたどり着いたところまでの距離を体感しよう。たとえば、日本からヨーロッパまでの距離は、実際に飛行機に乗って行って見なくてはわからない。

旅人である私たちには、観るもの聞くものがすべて物珍しいことばかり。だけど、そこには日頃の私たちと同じように、何気ない日常を暮らしている人たちがいる。思慮と敬意をもって現地の人たちと接してみよう。そんなプチ文化交流でも、きっと幸せな気分になれますよ。国内だって面白いところはたくさん。各地のお祭りを見るのはもちろんだけど、半島めぐりや灯台めぐりなんかもお薦め。「旅」をしていると、「生きてるー!」っていう感じが味わえます。

C科先生のオススメ○○○

中山先生【バンド】

サカナクション

●何故おすすめなのか?その魅力

とにかくカッコいいから。それから、最近の曲は歌詞にメッセージ性や主張があるため、聞く人の解釈が開ざされてしまいがち。それに対して、サカナクションの歌詞には謎が多く、いろいろな解釈ができるので、何度曲を聞いても飽きないため。

||||| 推し♥ Music Video |||||

●怖い系

- ①「ドキュメント」: ストーカーの話。女優さんの演技がマジ怖い。
- ②「ルーキー」: 悪夢が無限にループするところが怖い。ボーカルの人の迫真の演技。

●不思議系

- ①「アルクアラウンド」: ノーカット一本撮りで、MVに工夫が凝らされている。
- ②「バッハの旋律を夜に聞いたせいで」: 映像も曲も、新しいのか古いのかよくわからない、変な違和感を感じる。
- ③「蓮の花」: 空想上の蜘蛛男と仲良くなる話。変なもの好きな人におすすめ。
- ④「モス」: 蝶に嫉妬する蛾の歌で、曲のノリがいい。

染谷先生【若衆】

先生は多趣味だが、その中でも今の推しは「若衆」

若衆文化研究会を率いている。先日も会があり、ZOOMで集まった(6月19日土曜日)。司会を染谷先生と漫画家の大竹直子さんが務め、本学学生や卒業生からの参加があるなど、盛況を収めた。特に、参加者の「春画にハマりまして。」という本を書いているOLの「春画一ル」さんという人が面白かった!参加したい人は染谷先生まで。

**好きなことを好きと言えるようになること、
そしてそれを追い求める事が大切。それだけで十分。**

完璧にできなくていい。
たとえ将来、その好きなことと職業が結びつかなくても(結びついた方がいいけど)、その好きなことと職業の両方をやり続けることが大切。

**「好きなだけでいい。
完璧にできなくても追い求め続けさえできれば。」**

「地域貢献研究」は、どのような授業なのでしょう？

岩間先生…この授業は、いろいろな場所で活躍している方々、例えば街づくりを裏で支えているマネジャーなどをお招きして、実際にどういった取り組みを行っているのかをゲストスピーカーとしてお話ししていただきます。で、それを私達（岩間先生、清水先生等）が最後にまとめる・・・といった授業です。

この授業は10年ほど前から始まりました。前は森先生という社会学の先生がいて、所謂「郷土学」として「地域」のことを学び、それを基に地域活性化の在り方について考える授業をやるよ」ということから始めて、今日に至ります。

昔、この大学は全く地元とのつながりが無かったらしく、その上先生たちは地元の事を知らない・・・という状況だったそうです。それではいけないという事で立ち上げたのが、この「地域貢献研究」と「ひたち学」です。

この授業の目的は、簡単に言えば「地域の活性化」と、学生一人一人に自分の「故郷」を持ってもらうことですね。「故郷」というのは、自分が生まれたところでも、今住んでいる場所でもなくて、将来自分が住むであろう場所とか、あるいは、自分が「この場所が好きだ」と言えるような場所、つまり「人生の中で最適な場所」なのです。例えば、東京でやりたい仕事があるからその近くに住む、あるいは海外のような遠い場所や、もちろん茨城など、「生まれたからここに住み続ける」のではなく、「此処に住みたいから住む場所」が故郷です。「故郷」を見つけること、そしてそこから「どうすればその故郷が良くなるか」を考えることが、この授業の目的です。

清水先生…地元の由緒ある所へ巡検をします。具体的な場所として、まず、泉が森の泉神社です。水木という場所に泉神社という神社があって、そこには自然に湧き出ている泉があるんです。そこに行きます。この泉は、常陸国風土記に記されている密筑大井（みつきのおおい）と推定されていて、昔はこの場所で老若男女が色んなものを食べたり、歌ったり、楽しい時を過ごしていたと書かれています。それが千二百年以上経っている今でも残っていて、私達のすぐ傍にある。私たちが住んでいるこの場所は決して今我々が居るだけではなく、遥か昔から人々が一生懸命生きていて、ということを感じて欲しいです。

もう1か所は、大聖神社に行きます。大聖神社には、かつて先住民と共に戦った壺屋香々背男（みかほしのかがせお）という神様を祀っています。まさに、昔の戦いの痕跡が此処にあるわけですね。そういうことをみんなの前で話せたらいいなと思います。香々背男が金の靴で蹴られて、三つの大きな石に分かれたと言われているのですが、これを宿魂石といいます。それが大聖神社の高いところに祀られているので、皆に登って見てもらおうと考えています。

あとは私と岩間先生が1時間ずつ話をしたり、地域で一生懸命頑張っている人々を外語講師と呼んで、その人たちの話を聞くようにしています。例えば、日立風流物の保存会の会長に来てもらって、どのようにして継承しているのか、ということを知りたいです。他にも色々な人がいますね。常陸多賀駅のところでも秋に開催される「よかつべ祭り」の創始者の方や、大久保鹿島神社に伝わる流鏝馬行事の保存会の会長にもお話を伺います。あとは、今年で閉山から40年になる日立銅山を撮影するカメラマンの方や、面白い人だと日立のウクレレ作家さんにもお話をしてお話をして貰おうと思っています。彼らのように、地域の中では一生懸命地域の中で生きていく人達がいるわけですね。それを私達は知らないで生きています。この授業では、一生懸命地域で生きていく人達の姿に気付いてもらいたい。決して知られていなくても、様々な人が地域の中で紆余曲折しながら地域で生きていくことを、本人の生の声で知って欲しいです。受講生の心に火を灯せるような授業であって貰いたいですね。普段は聞けない意見を聞ける、貴重な授業です。地域貢献について、自分の中での位置づけを再確認することが、地域貢献の授業で一番大切なことかと思っています。

清水先生・岩間先生にお聞きました！

地域貢献研究って？

～自分の「故郷」・自分の「幸せ」～

清水先生



岩間先生



他のロン・ロン編集部員の方から、何やら「新しいことを始める」とお伺いしたのですが・・・？

岩間先生…例えば、「多文化協働」ですね。考え方や宗教、あるいは肌の色も違う人たちとどのように生きていくか、働いていくか。そういった考え方を「多文化協働」と言います。これは、外国人を「パートナーである」とする捉え方です。

茨城県北地域に関して、いまだに日本人だけでコミュニティを形成しているように思われている方が多いのですが、データを見てみるとそんなことはないですね。これは「見えない定住化」といって、観光や出張だけでなく、家を買ってその地域に住んでいる外国人が身近にいても、それに気づかない、あるいは無視する。こういった傾向が県北地域は強いんです。ですので、地元の多文化協働を支えていこうといった事を、いくつか行っています。

あるいは、地域貢献の一部として、その地域において足りないサービスをビジネスチャンスとしたい、起業したいと考えている若者たちをサポートする活動ですね。例えば、若くして起業した20代、30代の方々が、それより下の若者たちのサポートをするといったことですね。それに関する講座を、この「地域貢献研究」で開いてもらおうと考えております。

清水先生…地域貢献演習という授業を今年から始めまして、地域貢献の授業は地域貢献演習、ひたち学、地域貢献研究の三柱でやっています。地域貢献演習はまさに現場に行く。今年はコロナの影響で苦しんでいるのですが、実際はお祭りの現場に行って、お祭りを体験しよう、という授業です。これが私にとっては真骨頂、一番実現したいものですね。何百年も続いている伝統に携わることができるのは、難しい体験だと思います。

あとは計画中ですが、山・鉾・屋台行事の保存継承についてのシンポジウムを今年もやると思っています。昨年はオンラインのみでしたが、今年は会場にも人を入れて、対面とオンラインの混在でやるかと考えています。地域の文化をどのように担っていくか、大学生としてどのように参加していくかを話し合いたいと思います。学生の皆さんにも是非参加していただければと思っています。

「新しいこと」への意気込みをお願いします

岩間先生…楽しく行きたいです。二二（日立市）は出来ることがいっぱいある街なので、みんなが楽しく街づくりが出来ればいいなと思っております。

清水先生…これは私の今まで取り組んできた仕事や、学んできたことの集大成だと思っています。次の代を担う学生の皆さんに還元していくのが私の使命だと思っていますので、私の持っているあらゆる知識や経験、技術をすべて皆さんに与えたい。皆さんには、自分の頭で考え、判断できる人間になってもらいたいですね。

最後に、生徒の皆さんに一言お願いします

岩間先生…ぜひ、「故郷」を見つけてください！そして、「地元」に縛られないでください！！

清水先生…幸せになってください。私は皆の幸せを祈っています。皆を幸せにするために、私はここで皆さんを支援したい、働きたいと思えました。誰かを幸せにすることは、自分の幸せにも繋がると思っています。皆さんには自分の意志で、よりよい人生を掴めるように、幸せになる目的を忘れないで欲しいと思います。